

私たち 諏訪市認知症地域支援推進員です No.1

ライフドアすわの認知症地域支援推進員は、諏訪市地域包括支援センター（高齢者福祉課）や諏訪市社会福祉協議会と協力し、地域全体で認知症の方や家族を支え、認知症になっても安心して暮らせる地域をめざし、さまざまな取組をしています。昨年11月より、認知症や私たちの活動について、動画を制作して発信をしています。今回はその内容をご紹介します。

私たち 認知症地域支援推進員です



第1回「認知症 早期発見・早期診断のススメ」(令和2年11月 配信)

認知症とは

いちど正常に発達した知的機能が病気やけがのため、脳に異変が起きることで持続的に低下し日常生活に支障をきたした症状や状態の総称。



認知症の早期診断・早期発見の重要性

早いうちに原因がわかれば、適切な治療や対処ができる

他の病気と同じように認知症も早くみつけて、対応していくことが大切



認知症のほとんどを占める3大認知症

最も多い

- 1. アルツハイマー型認知症
- 2. レビー小体型認知症
- 3. 血管性認知症

全体の85%を占める

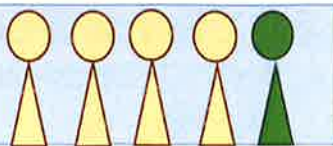
4. その他 治るタイプの認知症も含まれます
(脳や甲状腺の病変、栄養障害、薬物やアルコールに関連するものなど)

- ①認知症にみえても、別の病気が原因で認知症に似た症状が出る場合もある
その場合、もとの病気を治療することで、治ったり、症状を軽くできたりすることもある
- ②アルツハイマー型認知症は、症状を安定させたり、進行をゆるやかにする薬がある

認知症は、だれもがかかる可能性がある身近な病気

日本は急速に高齢化が進んでいます。認知症は高齢になるほど発症する可能性の高まる病気であることから、今後さらに認知症の人は増えていくと予想されています。

2025年（令和7年）には65歳以上の約5人に1人が認知症



- ③これからの生活の準備や、治療方針を自分で考えたり、家族に意思を伝え、相談できる
- ④家族や周囲の人も、認知症についての正しい知識や適切な接し方、また支援サービスを早くから知ること、病気の進行に合わせた対応やサービスが利用できる



第2回 「加齢によるもの忘れと認知症の違い」(令和2年12月 配信)



年齢を重ね、物忘れが多くなってくると「認知症になったのかも？」と心配される人も多いと思いますが、加齢による物忘れと、認知症による記憶障害には違いがあります。

加齢による物忘れ	認知症による記憶障害
体験や出来事の一部を忘れるが、手掛かりがあれば思い出せる	体験や出来事の全部を忘れてしまい、手掛かりがあっても思い出せない
物忘れがあることを自覚している	物忘れをしている自覚がない
日常生活に大きな支障はない	日常生活に支障がある
例えば・・・ ○朝食のメニューは思い出せないが、朝食を食べたことは覚えている ○約束をすっかり忘れてしまった ○曜日や日付を間違えることがある	例えば・・・ ○朝食を食べたこと自体を忘れている ○約束したこと自体を忘れている ○月や季節を間違えることがある

広報すわ 2020年10月号より



上記のように、食事をしたのに食べたこと自体を忘れてしまい、「まだ食べていない」「食べさせて」と訴えられたとき、どのように対応すれば良いのでしょうか。



認知症は思い出せない病気です。「食べたこと」を理解してもらおうとしても、ご本人は納得がいかず、訴えても「食べさせてもらえない」という悲しみや不安が残ります。まずは否定をせずに、ご本人の「食べていない」という思いを受け止めることが大切です。

「今、準備をしているから、少し待っててくださいね。」と声をかけたり、飲み物や少量のお菓子を用意するのも一つの案です。

■ご紹介した内容は、諏訪市公式チャンネルで動画配信をしています

諏訪市公式チャンネル

検索

または



ライブドアすわホームページ

「リンク集」の

「諏訪市公式チャンネル(YouTube)」